

はじめに

山梨県衛生環境研究所は、県民の生命と健康を守るための科学的・技術的中核機関として、感染症をはじめ、食中毒の原因究明やまん延防止、食品・医薬品の安全性の確保、更には大気、水質及び土壌の汚染防止等の環境保全に関わる試験検査、調査研究に取り組んでおります。

平成28年度を振り返りますと、ブラジルのリオデジャネイロでオリンピックとパラリンピックが開催され、ジカ熱の拡大が心配されましたが、大きな問題もなく、世界保健機関（WHO）は、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」の終息を11月に宣言しました。しかし、エボラ出血熱、MERS、黄熱、鳥インフルエンザ、ジカ熱、デング熱などの発生は続き、薬剤耐性対策アクションプランの取り組み、テロ事件の多発、北朝鮮による核実験やミサイル発射等々、国際状況は、厳しさを増しております。

国内では「キュウリのゆかり和え」、「冷凍メンチカツ」を原因とするO157食中毒や「キザミのり」によるノロウイルス食中毒の発生、12農場に及ぶ高病原性鳥インフルエンザの発生、関西国際航空での麻疹発生、野生鳥獣の肉（ジビエ）を原因とする健康被害などがありました。我々を取り巻くこれらの問題は、国際化、広域化、大規模化、複雑化、多様化しており、早期の原因究明や未然防止対策等が課題とされているところです。

また、県内においてはミネラルウォーターからの臭素酸の検出、水道水の揮発性物質混入、「ホスピタルダイエット」と称される製品による健康被害、日本脳炎の患者発生など、県民の生活に関わる様々な事例が発生しており、県民の健康を守るための当研究所の果たす役割の重要性を感じております。

ここに、平成28年度の調査・研究の成果を「山梨県衛生環境研究所年報第60号」として取りまとめました。また、年報60号の節目に当たり、諸先輩方の当研究所の思い出などについても寄稿をいただきました。

今後も引き続き、県民の生活の安全・安心を支える試験研究機関として、健康危機や環境問題などに迅速かつ的確に対応できますよう、関係機関と連携しながら機能強化を図って参りますので、なお一層のご支援をよろしくお願いいたします。

平成29年11月

山梨県衛生環境研究所

所長 浅川 洋 美

目 次

I	組織と沿革	1
II	業 務 報 告	
	企画情報科、総務スタッフ	2
	生活科学部	7
	微生物部	9
	環境科学部	12
III	資 料	14
IV	論文抄録および学会発表	27
V	研 究 報 告	30
	増富温泉地内自然湧出泉の ²²² Rn濃度の経時的変化について	31
	GC キャピラリーカラムの溶媒洗浄効果	39
	コリジョンセルICP-MS法による水試料における多元素測定	44
	甲府地区における花粉の観測結果	48
	VNTR 法による結核菌の遺伝子型別について	50
	食品及び食品製造施設から検出された大腸菌群の解析	53
	レジオネラ症患者関連調査における山梨県内の 公衆浴場等からのレジオネラ属菌検出状況について	56
	山梨県内におけるノロウイルスが原因となった集団下痢症事例	60
	山梨県におけるインフルエンザの検出状況(2016~2017)	62
	山梨県内河川の付着珪藻 一丹波川(多摩川支川)の珪藻一	65
	葉状地衣類(ウメノキゴケ科)の生長に及ぼす要因について	69
	2017年2月に山梨県で観測された微小粒子状物質(PM _{2.5})高濃度事例の要因解析	74
	山梨県内における外来淡水産プラナリアの生息調査(平成28年度)	80
	西湖におけるプランクトン組成の季節変化(2015年度)	81
VI	第60号に寄せて	85